



野口 昌作 議員

国有地の払い下げ申請は？

町長 建設課が担当

【野口】 地籍調査で赤線（道路）、青線（水路）の境界が明らかに。町に払い下げ申請をするには、どのような手続きが必要か。

【町長】 国有地の払い下げを受けるための、用途廃止の手続きは建設課が担当している。用途廃止決定後、総務課で申請者と土地の売買契約を行って、所有権移転登記となる。



境界を明らかにする地籍調査

【野口】 手続きがむずかしいとの声を聞いているが、手続きの指導方針はどうなっているか。

【町長】 利害関係者からの承諾書・申請する場所の面積・地番などが必要だ。地番が付いていない土地は、測量などが必要になってくる。これらがむずかしいと思うが、手続きをしてもらわなければならない。

【野口】 10月の全国和牛能力共進会で、本町の生産者が県代表で出品し、入賞している。畜産は今後も発展していかねばならない。堆肥センターの建設が必要ではないか。

【町長】 県・普及所・ネギ部会などの連携がうまくいけば、堆肥センターの建設は必要ない。

【野口】 農業・観光の臭気対策としても必要だと思うが。

【町長】 将来に向けて取り組みを進める。

畜産振興に堆肥センターを！

町長 建設は必要ない



町内の生産者が入賞した「第10回全国和牛能力共進会」(長崎県)

公社の取引先は？

町長 海外企業とは連絡を取っていない



米本 隆記 議員

【米本】 前専務理事が築いた取引先との縁がなくならないように、今年度は、なぜ今まで取り引きやイベントを行おうとしなかったのか。

大山恵みの里公社の組織が変わるが、それにもなうメリットとデメリットは。公社に出品する農家はどうか。

【町長】 海外企業とは連絡を取っていない。国内は東京の取引先に一度行った。いま、そのほかの取引先をまわっている。

国の法人制度改革により、一般財団法人に移行する。生産者会員に不利益はおよばない。

【米本】 住民監査請求では、国内の出張にふれていないが、どうだったか。

【代表監査委員】 平成23年度は、商用のために名古屋に回出張している。あとの国内での移動は一般的な商業活動、営業活動として処理されている。

除雪対策は万全か？

町長 体制は整っている



生活に支障が出ない除雪を

【米本】 近年、大雪が降り、生活に思わぬ支障をきたすが、その対応策は。とくに、高齢者世帯・障がい者の家庭が病院などに行く必要がある時の対応は。

【町長】 除雪計画にもとづき、体制を整えている。除雪ボランティア

【米本】 近年、大雪が降り、生活に思わぬ支障をきたすが、その対応策は。とくに、高齢者世帯・障がい者の家庭が病院などに行く必要がある時の対応は。

【町長】 除雪計画にもとづき、体制を整えている。除雪ボランティア

山香荘の赤字解消は？

町長 営業努力で克服



4月にリニューアルオープンする山香荘

【米本】 山香荘の条例が12月議会に上程されたが、料金表を見ると今までとあまり変わりがなく、赤字解消は？

【町長】 指定管理者候補と詳細な協議をした。赤字の大きな原因であった食事の提供は、豊富な経験と積極的な営業で、克服してもらえるものと期待する。

サッカー協会と指定管理者の利害調整をしてもらう。



諸遊 壊司 議員

検証「4年間の森田町政」

町長 さまざまなことに取り組んだ

【諸遊】大山恵みの里公社は、平成23年度590万円の黒字決算であるが、町などから6600万円の補助金が出ている。黒字ではない。また、雇用面では、正職員8人のうち6人が町外在住者だが。

【町長】2000万円の売り上げ増の結果、黒字化した。

町内の住民を採用すべきだが、住民の応募が少なかった。

【諸遊】農産加工所は、当初の目的と違うのではないか。

【町長】1年を通してコンスタントに仕事をしていくために、肉を使った製造をスタートした。

【諸遊】毎年高くなる医療費の対策は。

【町長】国保の医療費は、平成21年度の増加率が12・5%。対策は、健康寿命を延ばすための人間ドック受診枠の拡充・脳ドックの新規実施など。

【諸遊】4年前に歩くプール建設を中止した考えに今も変わりはないか。

【町長】効果は認めるが、現在利用している施設に人数の余裕がある。

【諸遊】課長などで構成するチームの政策提案があまり実行されていないのでは。

【町長】指摘を受け止め、今後に生かす。



農産加工所での加工作業

道州制で町はどう変わる？

町長 国の選挙前に答えるべきではない



近藤 大介 議員

【近藤】道州制の見通しと、実施された場合の町への影響をどう考えるか。

【町長】全国の町村で根強い反対もあり、実現の見通しには不透明なものがある。

道州制になった場合、市町村の機能を現在のままとするのか、国・県からの程度の事務権限を移すのかなど不明であり、影響は判断し兼ねる。

【近藤】自民党では、道州制基本法案がすでに作成されており、10年以内に道州制が実施される可能性は低くない。その際の市町村規模は、人口10万人以上と想定されており、大山町は米子市との合併を検討せざるを得なくなる。

本町には168集落があるが、住民自治がどうなるか不安なことが多い。町の危機感がたまりないのではないか。

【町長】近藤議員の想像の話であり、この時期（衆議院選挙前）に話すことではない。



まちづくり会議の様子(所子地区)

養護学校への通学保障を！

教育委員会 新たな制度を検討



養護学校の送迎バス停の1つ(役場大山支所)

【大森】憲法第26条・教育基本法第4条教育の機会均等の観点から、養護学校に通う児童・生徒の通学を十分保障すべきである。

米子市までの遠距離通学になるため、現在養護学校のスクールバスが来る場所まで、保護者が送迎しなければならぬ。

養護学校に通学する児童・生徒の教育について、基本的な考えは、【教育委員会】町内の小・中学校に通う子どもと同じように、教育保障をしていきたい。

【大森】養護学校に通う小・中学生の通学実態は。

【教育委員会】来年度は3人増の8人。自宅から乗車場所までの距離は、2.5km以下が4人、約14kmが2人、あと2人は米子市内に住。

【大森】保護者の送迎負担の解消、軽減の方策は。

【教育委員会】経費負担軽減のための新たな制度を検討している。また、関連の担当課とも連携しながら支援の方法を検討している。

国保の窓口負担の減免を！

町長 慎重な検討を要する

【大森】国保法44条は、「保険者は、特別の理由がある被保険者で、窓口一部負担金の支払いが困難な者に、減額免除、猶予できる」と規定している。

一昨年、厚労省が通知を出した結果、減免制度を実施する全国の市町村は6割強に増加した。

過去2度の質問に「検討を重ねる」との答弁だったが、その後どうなっているのか。

【町長】国保財政の現状から、慎重に検討を行う必要がある。

【大森】制度化されても、財政負担はそれほどない。どんな検討がされてきたのか。

【町長】県内では4市8町村で制度化されている。

【大森】5自治体から12自治体へと増加している。町民の安心のために安全網を整備すべきた。

【町長】厳しい財政運営のもとでは、慎重に検討していきたい。



国民健康保険を担当する住民生活課

議事録をホームページに！

教育委員会

公開するよう検討

【竹口】 ホームページで教育委員会の議事録を公開してはどうか。【教育委員会】 できるだけ早く検討する。

【竹口】 要点筆記ではなく、全文を議事録として残してはどうか。【教育委員会】 教育委員会の内容は、個人情報が含まれる案件や、教育現場にふみ込んだ協議などが多い。また、全文の記録は、現在の職員体制では無理があり、経費もかかるため考えていない。

【竹口】 教育委員会をテレビやインターネットで配信してはどうか。【教育委員会】 町民のニーズがどうなのか疑問である。また、限られた案件しか公開できない状況では、議会中継のようにできないので、現段階では考えていない。

【竹口】 独自の広報誌を発行してはどうか。【教育委員会】 各家庭に配布する区長の負担軽減のために、お知らせなどは広報誌に集約している。経費を考えたも、独自で発行はしない。



竹口 大紀 議員 一般質問



教育委員会のホームページ

認知症も集団検診に！

町長

先進事例を調査したい

【岡田】 近年、高齢者の認知症が増加し、そのケアが家庭や社会の大きな負担になりつつある。認知症の早期診断が直接治療に結びつき、進行を遅らせる介護予防の可能性が見えてきているが、集団検診に加えられないか。

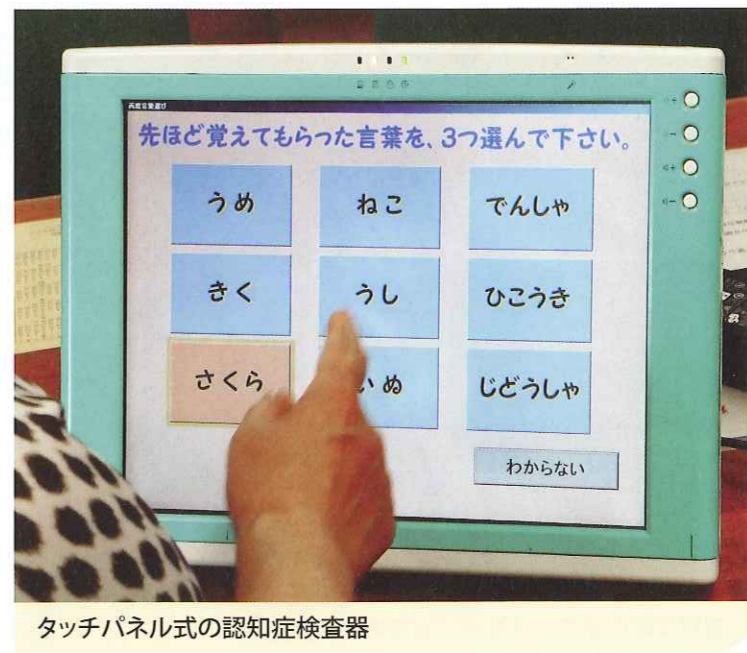
【町長】 集落での転倒予防教室や「いきいきふれあいサロン」で簡易検査を行っている。集団検診で行うには、専門医や検査機材の確保などが必要。

【岡田】 趣味・興味のある仕事・有酸素運動などを続けることが予防に効果があるという研究結果も出ているが。

【町長】 先進事例を調査し、検討したい。



岡田 聰 議員



タッチパネル式の認知症検査器

【竹口】 名和地区の拠点保育所に関する保護者アンケートの結果は。【教育委員会】 回答率は82・3%で、光徳保育所を残す16・8%、庄内保育所を残す29・9%、すべて統合して1園にする50・5%、無回答が2・8%だった。

【竹口】 アンケート調査をもとにした、名和地区の保育所体制は。【教育委員会】 平成25年の早い時期に結論を出す。

【竹口】 アンケートでも過半数は1園に統合でよいと言っている。今後の教育委員会での議論はどう進めるのか。【教育委員会】 教育委員会で方針を出すのが、

過半数が1園に統合希望！

教育委員会

方針に固執しない

固執はしない。例えば、平成25年の秋に新年度の入園希望を取り、残す保育所に人が集まらず、機能しない状況であれば、拠点保育所1園体制にすることもあ



名和地区の拠点保育所建設地

発注工事の価格は適切か？

町長

基準にそっている

【岡田】 「町単独の工事や農林関係の工事では、単価が低く赤字だ」という声が多いが。

【町長】 県土整備局や農林水産省が定めている、積算基準や実施設計単価を使用している。

【岡田】 設計金額と発注金額との差はないか。また、農林関係で仮設経費は出せないか。

【町長】 差はない。農林の工事では、国の基準で仮設道路は認められない。

【岡田】 町内の産業・雇用を守るためにも、適切な工事費で発注すべきと考えるが。

【町長】 提案の思いを受け、国や県の工事と合わせて進めたい。



町道の拡幅工事

みなさんからの陳情は こうなりました

12月定例議会で審査した陳情の
委員会意見と、本会議での採決結果
を報告します。

陳情の内容	陳情者	委員会の意見・結果	付託委員会	結果
国立病院と地域医療の 充実を求める陳情書	全日本国立医療労働組 合米子支部 支部長 渡邊和志	国立病院は、政策医療の提供、また地 域医療の拠点として、重要な役割を担っ ている。 賛成4人、継続審査1人で採択。	教育民生	採択
年金2.5%削減中止 を求める意見書の陳情	全日本年金者組合鳥取 県本部 委員長 増田修治 他1名	物価指数下落と年金との差が2.5%に 拡大している。 年金制度の安定性を高め、持続可能な 制度にしていくためにも、2.5%削減は必 要である。 賛成1人、反対4人で不採択。	教育民生	不採択
原子力から再生可能な 自然エネルギーへのエ ネルギー源の転換を求 める陳情書	反核・平和の火リレ ー鳥取県実行委員会 実行委員長 小谷明寛	福島第一原発と同等の事故も予想され るなか、日本のエネルギー政策の転換を 求める必要もある。 全会一致で採択。	総務	採択
島根原発1号機・2号 機の再稼働反対と3号 機の建設凍結を求める 陳情書	反核・平和の火リレ ー鳥取県実行委員会 実行委員長 小谷明寛	島根原発3号機の施設はすでに完了し、 原子力規制委員会の検査を残すのみと なっている。国の方針が決まらないなか、 結論は出せない。 継続審査3人、反対1人で継続審査。	総務	継続審査

意見書

12月定例議会で委員会から提案された意見書の内容と、
採決の結果は次のとおりです。意見書の提出を求める陳情を
採択した場合、議会の議決を経て関係機関に提出します。

提出 → 国

国立病院機構米子医 療センターの充実強 化を求める意見書

地元の独立行政法人国立病院機構米子医療センターは、国が担うべき医療として適切な医療の提供を行って、地域医療を支えている。
全国各地で、公的病院の閉鎖や医師・看護師不足などが問題となっているが、いつでも・どこでも・だれでも安心して医療を受けられる体制の確立は、住民の切実な願いである。

可決

原子力から再生可能な自然 エネルギーへのエネルギ ー源の転換を求める意見書

2011年3月に発生した東日本大震災で、東京電力福島第一原発の事故が起きた。事故発生から1年以上を経て、なお15万人が避難生活を余儀なくされている状況である。日本が世界一の地震国であるという避けがたい事実を十分にふまえて、原子力発電を基幹とする国のエネルギー政策そのものの転換が必要である。

可決

提出 → 県

「鳥取県保健医療計 画」に関わる意見書

独立行政法人国立病院機構米子医療センターの役割・機能(がん・脳卒中、糖尿病、救急医療、災害医療、へき地医療、小児医療)を計画に位置づけること。

可決

公共施設の今後は？

町長

利活用・取りこわし も考える

【池田】 大山・中山地区の拠点保育所が完成し、5カ所の保育所が閉所になった。そのうち、高麗保育所は地区の人が使用することに決定した。
山香荘の建物も建設から30年が過ぎている。今後、公共施設を補修、取りこわし、新築などのような判断をするつもりが。

【町長】 閉所した保育所の今後は、まちづくりに委員の提案を優先していく。
旧高麗保育所は地域自主組織(ふれあいの郷(あらし山))により利用が始まっている。利活用されない場合は、企業や団体の利用も検討したい。
今後使用する施設は計画的に修繕を行う。利用が見込めない施設は、取りこわしを検討していきたい。



利活用が始まった旧高麗保育所

池田 満正 議員

一般会計の補正予算

可決

補正された主な事業

- 平成24年8月、9月の豪雨で被災した農地などの復旧事業 **932万円**
- イノシシの被害防止と個体数の削減をはかる野生鳥獣被害防止事業 **120万円**

国民健康保険特別会計の補正予算

可決

補正された主な内容

- 被保険者資格の異動による国民健康保険税の還付金と還付加算金 **77万円**

平成24年第9回臨時会が10月30日に開催されました。
この臨時会では、補正予算2件が提案され、いずれも可決されました。

10月臨時会

議会 4年間のあゆみ

年表

早いもので前回の選挙から4年の月日が流れました。
議会の4年間の活動と、議決した主な事業を年表と写真で振り返ります。

H22 7月 手づくり工房大山恵みの里が本格稼働



H22 4月 第1回議会報告会の開催



平成21年4月 町議会議員の選挙

6月 議会改革調査特別委員会の設置(第1次)

6月 地域自治組織調査特別委員会の設置

6月 地域産業活性化調査特別委員会の設置

平成22年1月 ケーブルテレビで臨時議会の中継開始(録画放送のみ)

4月 第1回議会報告会の開催

6月 一般質問を一问一答方式にし、質問回数の制限をなくす

7月 手づくり工房大山恵みの里(農産物処理加工施設)が本格稼働


9月 大山中の原スキー場の指定管理者を(株)だいせんリゾートに決定

11月 第2回議会報告会の開催

12月 上下水道料金の統一を決定

平成23年2月 鳥取県町村議会広報コンクール最優秀賞(県1位)を初受賞

H22 6月 一般質問に一问一答方式を採用 質問回数の制限撤廃



H24 4月 中山みどりの森保育園と大山きやらぼく保育園が開園




H24 12月 リニューアル後の山香荘多目的グラウンド



3月 山香荘の整備計画を含む当初予算を否決

4月 第3回議会報告会の開催

4月 大山北麓(神田地区)活性化調査特別委員会の設置

9月 議会のインターネット中継を試験的に開始

9月 修正された山香荘の整備計画を含む補正予算を可決

11月 第4回議会報告会の開催

12月 議会改革調査特別委員会の設置(第2次)

平成24年3月 大山恵みの里構想調査特別委員会の設置

4月 第5回議会報告会の開催

4月 中山みどりの森保育園と大山きやらぼく保育園が開園

7月 議会ホームページのリニューアル

10月 第6回議会報告会の開催

10月 臨時議会の生中継開始

12月 議員定数を3人減の16人に決定

12月 山香荘の指定管理者を決定

H22 9月 運営会社が1つになった大山スキー場



平成25年1月 議会のインターネット中継を本格的に運用開始

2月 鳥取県町村議会広報コンクール最優秀賞(県1位)を受賞

H25 1月 議会インターネット中継本格運用



H24 7月 議会ホームページのリニューアル




4年間の議会だより

今号が今の広報委員でつくる最後の議会だよりとなりました。締めくくりに、議会広報の4年をふり返ります。



- 平成21年6月 今期最初の議会だより16号を発行
- 8月 議会だより17号発行(町政刷新)
- 11月 議会だより18号発行(町民に感想を募集)
- 平成22年2月 議会だより19号を試験的に自主編集・データ入稿で発行
- 3月 鳥取県町村議会広報コンクール優秀賞(第2位)を受賞
- 4月 議会だより20号発行(今号から完全自主編集・データ入稿で発行)
- 7月 議会だより21号発行(議会報告会のその後)
- 10月 議会だより22号発行(特集で初めて中学生にアンケート調査)
- 平成23年1月 議会だより23号発行(特集で新成人の意識調査アンケート)
- 2月 鳥取県町村議会広報コンクール最優秀賞(第1位)を初受賞
- 5月 議会だより24号発行(県外のサッカー場視察報告)
- 7月 議会だより25号発行(特集で子育て支援センターにて取材)
- 7月 日野町の議会広報委員会が議会だよりだいせんの調査研究に来庁
- 8月 福岡県遠賀町の議会広報委員会が議会だよりだいせんの調査研究に来庁
- 11月 議会だより26号発行(特集で敬老会にて取材)
- 11月 長野県千曲市の議会広報委員会が議会だよりだいせんの調査研究に来庁
- 平成24年1月 兵庫県淡路市の議会広報委員会が議会だよりだいせんの調査研究に来庁
- 2月 議会だより27号発行(特集で農業青年を取材)
- 2月 鳥取県町村議会広報コンクール優秀賞(第2位)を受賞
- 4月 議会だより28号発行(特集で若手起業家を取材)
- 8月 議会だより29号発行(特集で保育所の保護者と意見交換会)
- 8月 福岡県岡垣町の議会広報委員会が議会だよりだいせんの調査研究に来庁
- 10月 議会だより30号発行(議会改革の審議経過)
- 11月 北栄町・智頭町・大山町の議会広報委員会で合同研修を初開催
- 平成25年1月 今期最後の議会だより31号を発行(4年間のふり返り)
- 2月 鳥取県町村議会広報コンクール最優秀賞(第1位)を受賞

議会だより だいせん 広報コンクール 最優秀賞!!

議会だより第28号(平成23年3月定例会)が鳥取県町村議会広報コンクールで最優秀賞(県1位)に選ばれました。今後も読みやすく、そしてわかりやすい議会だよりをめざします。

- 【発行責任者】**
議長 野口 俊明
- 【広報委員会】**
委員長 竹口 大紀
副委員長 大森 正治
委員 西山 富三郎
委員 池田 満正
委員 杉谷 洋一
委員 米本 隆記

いよいよ、今期最後の議会だよりとなりました。広報を任せられた委員会として、読者に親しまれる紙面づくりに努めてきましたが、いかがでしたでしょうか。

この4年間のうちに議会ホームページのリニューアルが行われ、本会議のインターネット中継も開始されました。

議会の情報公開は、コストを抑えつつ、あらゆる手段を提供しなければ町民の期待に応えられない時代になっています。

次期の広報委員会では、議会だよりやホームページでの情報発信のみならず、さまざまな方法で町民との距離をさらに縮めてほしいと思います。

ご愛読いただきまして、ありがとうございました。(竹口)

あとがき

大山町議会報告会

議会報告会も大事だが、意見交換のできる場を!!



議会報告会を終えて

第6回議会報告会と意見交換会を10月に町内3会場で開催しました。参加された方の質問・意見・要望などの一部を紹介いたします。

議員と町民とのやりとりの一例

【町民】議会の責任として行政がどう執行しているのか検証もすべき。

【議員】例えば、未収金について行政は努力しているが、実績が上がっていないので、きびしく指摘している。各常任委員会でも検証を行っている。

一番知りたいのは議員の考え。報告だけではいけない。大山町が先端を走るとしてもよい。

議会だよりが各家庭に配布され開かれた議会として前進だと思うが、議会報告会への町民の参加者が少なく残念だ。

議会報告会は大切だ。参加者が少なくても継続してほしい。議員も出身地域にとらわれずに出席を。

そのほかのご意見

議員は政策提言のできる勉強してほしい。

議会報告会で意見を聞いて帰るばかりではいけない。意見交換ができない。

議員の行政視察は再考すべきだ。どれだけの知識となり活動に生かされているのか。

議会報告会のあり方について、活発な意見が出てよかった。町民の率直な意見を、今後の町政に生かしてほしい。

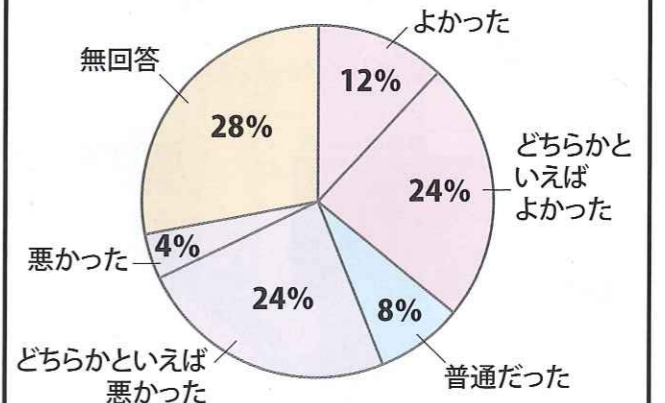
第6回議会報告会で行政に寄せられた意見・要望と行政の回答

- 要望** 集落座談会以外で住民と行政が対話できる行政懇談会の開催を。
町長 旧町単位でも意見交換会を行っているが、今後も必要に応じ、対話の場をつくる。
- 意見** 大山恵みの里公社の法人化で、町の関わり方は。
町長 今までと変わらない。
- 意見** 山香荘は、春の開業に向け営業活動を始めなければならない時期。スピード感がない。
町長 営業活動は指定管理者が行うが、町も応援する。
- 要望** 沿岸部の海拔表示板が少ないので、広く設置してほしい。
町長 59箇所に設置している。新たな設置要望を沿岸部27集落に確認中。
- 意見** 埋もれた観光資源の掘り起こしで、地域活性化の取り組みができないか。
町長 観光協会や大山ツーリズム協議会などの住民活動を後押ししたい。

行政への要望と回答の全文は議会ホームページをご覧ください。
www.daisen.jp/gikai/

参加者 55人(前回46人)
中山地区 13人(前回(4月)17人)
名和地区 31人(前回(4月)12人)
大山地区 11人(前回(4月)17人)

【アンケート調査】報告会の評価は?



みんなのひろば

声



林原謙二郎 (下前谷)

高齢化と人口減少が進み、部落の活動や慣例が「今まで通り」にならなくなる。不平不満が出る前に何とかならないか。
委員会を作つて話し合いを重ねた結果、管理・環境・福祉・交流の4つ

	助
	け
む	合
ら	い
づ	の
く	
り	

の部会ができた。40歳から70歳なかばまでのほとんどの男女が部員となつて部落の活動に参画する。多くの住民が少しずつでも知恵と力を出し合おうというものである。
部内の話し合いによって「今まで

通り」は見直される。状況に合わせて改革・廃止されることもあるだろう。新しい活動が生まれるかもしれない。また、部員が情報を共有して引き継げば、恒例活動には経験が生かされる。さらに、住民のつながりが増えて、近所の助け合いや談笑する光景が増えることも期待できる。「助け合いのむらづくり」をキャッチフレーズにして、今年、4つの部会が一步をふみ出す。



入澤由美 (あずみの郷)

昨年より10数人の不思議な御縁で会合が始まりました。
近隣地域に住んでいても一度も会つたことがない人もいる現代社会の中、私たちの地域に、ふれあい・集

	+
	人
+	
色	

える場所「ふれあいの郷かあら山」ができあがりました。
核家族・独居高齢者が増え、年齢層に関係ない幅広い世代交流が活性化につながり、地域全体へと広ま

ると楽しいですよね。
うれしい一言、「親しみやすく、ずっとおれる」「顔見に来たわ」など、お互いの心の支えにもなり、元気の出る言葉でした。
十人十色、力を合わせて子どもたちの成長、高齢者の見守り、私たちの日々の成長とみんなでがんばっていきたいと思います。



大西里美 (岡)

この地に嫁いで28年。4人の子どもに恵まれ、この度、末っ子が成人式を迎えました。海あり、山あり、自然に恵まれた環境の中で子育てができ、幸せに思います。

	ふ
	る
住	さ
み	と
よ	大
い	山
町	を
に	
:	

これからのことを考えた時、次世代の子どもたちは、ふるさとに帰つて来てくれるのでしょうか？
わが家は梨を栽培しており、子どもたちを連れ、農作業を手伝わせた

こともありますが、梨の後継者については、今のところ疑問符です。次世代の若者たちに、豊かな土地と農業を守り、維持発展して欲しいと思います。
農業だけの問題ではなく、人口を増やすためにも、大山町を魅力のある住みよい町にしていかなければならないと感じています。

